断腸　解答

A　語句の意味と読み

(1) 部隊・隊列。ここでは、桓公が率いていた軍の部隊。 ／「伍」は五人一組の兵の単位（「隊伍」「落伍」の伍）。「部伍の中に」＝部隊の中に

(2) 沿って。（「岸に縁りて」＝岸に沿って） ／★「縁」はもともと「ふち・へり」の意味の字。「縁る」で「〜に沿う」。教科書によっては「縁（そ）ひて」と読む

(3) 悲しんで泣き叫ぶ。 ／「号」は大声でさけぶこと（「号泣」の号）。現代仮名遣いでは「あいごう」

(4) おどりて／跳びはねて（勢いよく跳んで）。 ／★歴史的仮名遣い「をどる」の語頭の「を」は「お」に直す。「跳」を「とぶ」と読む書き下しもある

(5) 息が絶える・死ぬ。 ／「絶命」の「絶」。母猿は船にたどりつくと、すぐに死んでしまった

(6) ずたずたに・細かく切れ切れに。 ／「寸」は短い長さの単位。それを重ねて「ひと区切りずつ」＝こまぎれに。「すんすん」と読む教科書もある

(7) （官職・地位から）退ける。職をやめさせる。 ／この話が収められた篇の名「黜免（ちゅつめん）」も、官職をやめさせるという意味

B　句法

(8) 「不」は「ず」と読む（書き下し文では平仮名で書く）。「去らず」＝立ち去らない・離れない。 ／「去」は「その場を離れる」。百里あまり進んでも、子猿のそばから離れなかったということ

(9) 已然形（「至れ」）＋「ば」で、確定条件を表す。「（船に）たどりつくと・たどりついたところ」と訳す。 ／★未然形＋「ば」（至らば）なら仮定条件「もしたどりつけば」になる。⑪「視れば」も同じ已然形＋「ば」

(10) 二字で「すなはち」と読み、「すぐに・そのまま」の意。 ／「便」も「即」も、一字で「すなはち（すぐに）」と読む字。同じ意味の字を重ねて、二字で「すなはち」と読む。★形の似た「則」（〜すれば・そこで）と区別

(11) 使役。「命令して〜させる」と訳す。 ／★「使・令」などの使役の字がなくても、「命ず」のように命令の意味をもつ動詞があれば、下の動詞に「しむ」をつけて使役に読む

(12) 命黜二其人一（「黜」に二点、「人」に一点をつける） ／読む順は 命→其→人→黜。二字以上を返って読むので、レ点ではなく一・二点を使う

C　主語・指す内容

(13) 桓公の部隊の中の者（桓公の部下の兵士）。 ／直前の「部伍の中に」が手がかり

(14) ③の「猿子」（子猿）。「其の母」は子猿の母猿のこと。 ／★「猿子を得る者（つかまえた部下）の母」ではない

(15) （子猿の）母猿。 ／★④「其の母」から主語が続いている。船に跳び移ったのは部下ではない

(16) 子猿を捕まえられた母猿が、百里あまりも追ってきて船に跳び移るとすぐに死に、その腹を裂くと腸がずたずたに断ち切れていたこと。 ／③から⑫までの出来事全体を指す。「聞きて」とあるので、桓公はこの出来事を話に聞いて知った

(17) 命じたのは桓公。「其の人」は子猿を捕まえた部下（③の「者」）。 ／★「其の人」を母猿や桓公とまちがえない

D　口語訳

(18) 部隊の中に、子猿を捕まえた者がいた。

(19) その（子猿の）母猿は、岸に沿って悲しげに泣き叫び、百里あまりも（あとを追って）進んで、離れなかった。

(20) とうとう跳びはねて船に乗り移り、たどりつくと、すぐに息が絶えてしまった。

(21) （母猿の）腹を裂いてその中を見ると、腸がみなずたずたに断ち切れていた。

断腸　解答／現代語訳

E　内容・記述

(22) 子を奪われた深い悲しみと、子から離れまいとする強い愛情。（二十八字）　／「百余里」という長い道のりと「去らず」に注目する

(23) 子猿を捕らえて母子を引き離し、母猿を悲しみのあまり死なせた行いがむごいから。（三十八字）　／怒った理由は本文に直接は書かれていない。③の部下の行いと、その結果（⑩〜⑫）を結びつけて考える

(24) 動物の親子の情にも心を痛める思いやりをもち、命や情けを軽んじる行いは、自分の部下であっても許さずにきびしく処分する人物。　／「情け深さ」と「けじめのきびしさ」の両方にふれる

F　文学史・故事

(25) 東晋の武将・政治家、桓温（かんおん）。　／「公」は身分の高い人を敬って呼ぶ言い方。軍を率いて蜀に入った

(26) 『世説新語』／劉義慶（南朝宋）／黜免篇　／後漢の終わりから東晋までの人々の言葉や行いを集めた逸話集。全部で三十六の篇に分かれる

(27) 断腸（だんちょう）／はらわたがちぎれるほどの、たえがたい悲しみやつらさ。　／ふつう「断腸の思い」の形で使う

(28) イ　／「断腸の思い」は、はらわたがちぎれるほどつらく悲しい気持ち。うれしい場面（ア・エ）や楽しい場面（ウ）には使わない

【現代語訳（全文）】

桓公（桓温）が（軍を率いて）蜀に入り、（長江の）三峡の中までやって来た。部隊の中に、子猿を捕まえた者がいた。

その（子猿の）母猿は、岸に沿って悲しげに泣き叫び、百里あまりも（あとを追って）進んで、離れなかった。とうとう跳びはねて船に乗り移り、たどりつくと、すぐに息が絶えてしまった。

（母猿の）腹を裂いてその中を見ると、腸がみなずたずたに断ち切れていた。

桓公はこのことを聞いて怒り、命令してその者を（職から）退けさせた。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる